



福山大学

FUKUYAMA UNIVERSITY

学 報

2014.5.28

号外

三蔵五訓

真理を探究し、道理を実践する。
豊かな品性を養い、不屈の魂を育てる。
生命を尊重し、自然を畏敬する。
個性を伸展し、紐帯性を培う。
未来を志向し、可能性に挑む。



祝

硬 式 野 球 部

中国六大学野球春季リーグ戦優勝
第63回全日本大学野球選手権大会出場

硬式野球部「全日本大学野球選手権大会」出場決定！

福山大学硬式野球部は、2014年度中国六大学野球春季リーグ戦において、完全優勝を果たし、第63回全日本大学野球選手権大会に出場(28年ぶり4度目)することになりました。

2014年度中国六大学野球春季リーグ戦の戦績と表彰選手

	福山	東亜	吉備	徳山	環太	岡商	勝	負	分	勝点	順位
福山大学	—	〇〇	〇●〇	●〇〇	〇〇	〇〇	10	2	0	5	1
東亜大学	●●	—	〇●〇	〇〇	〇●●	〇〇	7	5	0	3	2
吉備国際大学	●〇●	●〇●	—	〇〇	〇〇	●〇●	7	6	0	2	3
徳山大学	〇●●	●●	●●	—	〇〇	●〇〇	5	7	0	2	4
環太平洋大学	●●	●〇〇	●●	●●	—	●〇〇	4	8	0	2	5
岡山商科大学	●●	●●	〇●〇	〇●●	〇●●	—	4	9	0	1	6

- ・最高殊勲選手賞 経済学科4年 山本翔太郎 (山口県立宇部商業高等学校) 投手
- ・ベストナイン 経済学科3年 桑木 拓磨 (岡山県立玉島商業高等学校) 投手
- 経済学科3年 荒本 凌也 (広島県立高陽東高等学校) 一塁手
- 経済学科4年 木村 真登 (山口県立宇部商業高等学校) 二塁手
- 経済学科2年 安田 翔 (山口県・宇部鴻城高等学校) 遊撃手

◆リーグ戦総評

福山大学硬式野球部は、4月5日(土)～5月12日(月)まで行われました2014年度中国六大学野球春季リーグ戦において、8度目の優勝を飾りました。今回のリーグ戦では、エース山本翔太郎投手(山口県立宇部商業高等学校・4年)、桑木拓磨投手(岡山県立玉島商業高等学校・3年)の両右腕の安定したピッチングにより、常に有利な試合展開に持ち込むことができました。打線も1番打者の木村真登選手(山口県立宇部商業高等学校・4年)がリードオフマンとしての役割を果たし、2番打者の谷口乃基選手(岡山県立勝山高等学校・4年)がきちんと送り、4番打者の松原大雅選手(広島県・盈進高等学校・4年)を中心としたクリーンアップで走者を選ずという福山大学らしい野球ができていたように思います。守りも田中伸乃輔捕手(岡山県立倉敷工業高等学校・4年)を中心に、ピッチャーを盛り立て、相手に流れを渡しませんでした。そして、何よりも試合に出ていないメンバーを含めて、共に戦い全員で勝ち取った優勝だったと思います。



第63回全日本大学野球選手権大会は、6月10日(火)～15日(日)まで開催されます。福山大学は、6月10日(火)の第3試合、明治神宮野球場において札幌学生野球連盟代表と対戦することが決まっています。引き続き、応援よろしくお願いいたします。

蔵田 修監督のコメント

平成26年度シーズンに向けて

平成25年度のシーズンでは、春季リーグ戦5位、秋季リーグ戦3位とチームとしての結果が残せず、大変悔しい思いをしました。そして、シーズン終了後に平成26年度春季リーグ戦の開幕日である4月5日(土)を想定し、トレーニングやスイング量を増やして練習を行ってきました。練習でも選手が意識を高く持ち、主将や学生コーチが中心となり、主体的に必死に取り組む姿勢をみて手応えはありました。オープン戦が始まり、実践を行っていく中で4年生を中心に勝ちに対する執着心は非常に高いものを感じました。また、挨拶や全力疾走など当たり前のことを当たり前に行うことができ、メンタル面での浮き沈みが少ないチームとなっていました。次のステージに移ることができ、技術的なことや試合での流れを読めるチームと仕上がっていききました。

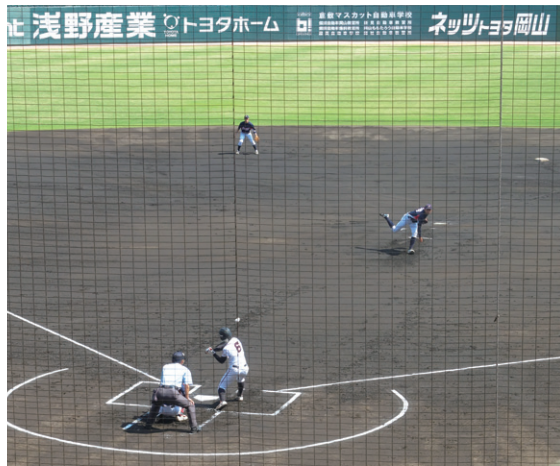
春季リーグ戦では

春季リーグ戦の開幕戦を意識して練習を積み重ねてきたこともあり、選手から緊張が伝わってきましたが、試合では緊張するのが当たり前です。緊張をいかにプラスに、集中力に変えることができるかが試合開始までの勝負と考えていますが、選手は個々にクリアしていたと思います。リーグ戦は全試合に試合での流れがあり、ポイントがありますが、劣勢で苦しい試合を勝つことにより選手たちの自信は格段なものとなります。そのような試合が、今シーズンにもありました。その後、選手も試合での集中力を非常に高め、流れを読みながら前半・中盤・後半の1試合を通してのゲームメイクができていました。また、メンバーに入れなかった選手の応援も優勝への大きな力となり、チームが1つになったと思います。

全国大会に向けて

平成23年に初出場した明治神宮野球大会では悔しい思いをしました。当時1年生で出場した選手が今年4年生となり、全日本大学野球選手権大会の切符を28年ぶりに獲得しました。全国大会を経験しているメンバーがいる間に、もう一度全国の舞台に何とか連れていきたいという思いがありましたので、非常に嬉しいものでした。全国大会では、春季リーグ戦での戦いのように、投手を中心として守りを重視していきたいと思ひますし、攻撃ではチャンスに強い選手が揃っており、一人一人が後ろにつなぐ意識でもやっていきたいと思ひます。現在では、過去の経験を生かして6月10日(火)の1回戦を見据え、練習や準備をしていますし、チーム全体の士気もあがっています。

大学関係者やOBの方々に喜んでいただけるように、また、良い結果報告ができるように硬式野球部は一丸となり頑張りますので、変わらぬご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。



木村 真登主将のコメント



今年の春季リーグ戦では、28年ぶりの優勝を果たすことができました。6月10日(火)から行われる第63回全日本大学野球選手権大会に出場します。初戦の相手は、札幌学生野球連盟代表との対戦です。3年前の秋季リーグ戦で優勝して以来、なかなか優勝できず、今の4年生中心となった新チーム後に、スローガンを「団結～心をひとつに～」と決め、部員全員で練習に励んできました。昨年の秋季リーグ戦では3位にとどまり、悔しい思いをしました。その悔しさをバネに冬季トレーニングではトレーナーが作成した個人の課題に沿った練習メニューを行いました。ウエイトトレーニングも例年以上に取り組み、毎月1回、ベンチプレスとスクワットの測定を行い基礎体力も強化してきました。さらに、バットを振る量も多くし、意識の高い練習を行ってきました。練習時間はそれほど長くはせず、短い練習の中でいかに意識を高く持ってやるか、オンとオフの切り替えをしっかりと短期集中で練習をしてきました。その中でも下級生の成長が大きかったです。下級生が自分たちのレベルアップをするために、上級生の良いところを吸収しようとしてコミュニケーションをとることで必然的にチーム全体の力も上がり、部内の競争意識が高くなりました。実戦練習が始まると、様々な課題が出てきては選手で話し合い、その課題を克服することを繰り返してチーム全体の力をつけてきました。普段の練習から緊張感を持つよう意識し、常にリーグ戦を想定した実戦練習を積み重ねることで投手と野手の信頼関係も良くなり、チームの雰囲気も良くなりました。昨年の秋季リーグ戦では、開幕から5連敗というスタートだったので、今年の春季リーグ戦開幕に合わせて練習を行い、その結果、今春のリーグ戦では開幕から連勝するという、いいスタートを切ることができ、その勢いのままに10勝2敗の完全優勝を果たすことができました。優勝できた最大の要因は、失点が少なかったことです。投手の山本、桑木の2人が安定した投球をしてくれたので、守り勝つ試合が多くありました。また、野手陣は少ないチャンスをもに勝負け強さが目立ち、試合中盤から終盤にかけての粘り強さがありました。試合を重ねるごとにチーム全体が成長し、雰囲気もどんどん良くなっていました。

また、優勝できたのはベンチ入りしていた25人だけの力ではなく、メンバーに入れなかった選手たちのサポートもあったからです。打撃練習では今まで野手がバッティングピッチャーをしていましたが、リーグ戦の期間はメンバーに入っていない投手が投げてくれることで野手は実戦に近いボールを打つことができ、その結果、リーグ戦で勝負強いバッティングをすることができたと思います。また、実戦を想定した守備練習では、ランナーをやってもらい試合に近い緊張感で練習をすることができました。このように、メンバーに入れなかった選手たちのサポートのお陰で、メンバーは伸び伸びとプレーすることができたと思います。メンバー入りした選手たちはチームの代表という自覚と責任感を持ち、学生らしく、はつらつとしたプレーができます。

3年前の秋季リーグ戦で優勝し、明治神宮大会に出場した時は悔しい思いをし、その時1年生だったのが今の4年生なので今回の全国大会に懸ける思いはとても強いです。全国大会でも勝てるチーム作りを目指し練習してきたので、今までやってきたことを信じてチーム一丸となり、一戦必勝で全国大会でも自分たちの野球をしていきたいと思ひます。これまで硬式野球部を支えてくださった方々への感謝の気持ちを忘れずに、全力でプレーするので、応援よろしくお願いいたします。

3年前の秋季リーグ戦で優勝し、明治神宮大会に出場した時は悔しい思いをし、その時1年生だったのが今の4年生なので今回の全国大会に懸ける思いはとても強いです。全国大会でも勝てるチーム作りを目指し練習してきたので、今までやってきたことを信じてチーム一丸となり、一戦必勝で全国大会でも自分たちの野球をしていきたいと思ひます。これまで硬式野球部を支えてくださった方々への感謝の気持ちを忘れずに、全力でプレーするので、応援よろしくお願いいたします。

出場選手のコメント(ベンチ入りメンバー25名)



背番号
10

木村 真登

(山口県立宇部商業高等学校出身)
チーム一丸となり、全国大会でも一戦必勝で応援して下さい。感謝の気持ちを忘れず、全力プレーで戦いますので応援よろしくお願いします。



背番号
28

安藤 拓人

(岡山県立水島工業高等学校出身)
全国大会では、1日でも長くこのチームで野球ができるように25名だけではなく、全員が団結し一戦必勝で戦っていききたいと思います。



背番号
18

山本 翔太郎

(山口県立宇部商業高等学校出身)
この度、春季リーグ戦で優勝し全日本大学野球選手権大会に出場することができました。選手権でもチーム一丸となって戦いますので、応援よろしくお願いします。



背番号
2

石田 和彦

(広島県立高陽東高等学校出身)
今まで支えてくれたチームの仲間や周りの方々への感謝の気持ちを忘れずに、全国大会で福山大学の力を出し切るよう頑張ります。



背番号
22

田中 伸乃輔

(岡山県立倉敷工業高等学校出身)
全日本大学野球選手権大会では、チームの勝利に貢献できるように大きな声を出し、全力でプレーします。



背番号
24

松原 大雅

(広島県・豊進高等学校出身)
全国大会では、主力として自分自身に自覚と責任を持ち、1勝を目指しチーム一丸となり頑張ります。応援よろしくお願いします。



背番号
17

古賀 亮太郎

(福岡県・自由ヶ丘高等学校出身)
支えて下さるすべての方へ感謝の気持ちを忘れず、自分たちの力を出せるよう頑張ります。応援よろしくお願いします。



背番号
23

谷口 乃基

(岡山県立岡山高等学校出身)
今まで支えてくれた方々への感謝の気持ちを忘れず、学生らしく、スポーツマンらしく全国の舞台上で戦ってきます。



背番号
9

廣田 光弥

(鳥取県・米子北高等学校出身)
入学前、先輩方が全国で悔しい思いをしているのでその借りを返せるように、まず1勝を目指し全力で戦います。



背番号
15

田地 将悟

(高知県・高知高等学校出身)
チーム一丸となって1勝でも多く勝てるように試合に挑み、またベンチに入らなかった仲間の為にも精一杯頑張ります。



背番号
4

井本 隼生

(山口県・早稲高等学校出身)
全国大会では、今まで積み重ねてきたことや応援していただいた方々への思いを忘れずに、自分ができることを精一杯頑張りたいと思います。



背番号
5

中山 貴祐

(広島県立総合技術高等学校出身)
この度、全国大会へ出場できたのは様々な方々の応援と支えがあったからです。試合では全力でプレーします。



背番号
6

荒本 凌也

(広島県立高陽東高等学校出身)
全日本大学野球選手権大会では、チーム一丸となり先輩方が明治神宮大会で悔しい思いをされているので、必ず勝ちます。



背番号
25

則貞 景介

(岡山県・興譲館高等学校出身)
自分のできることを精一杯し、少しでもチームに貢献できるよう頑張っていきます。応援よろしくお願いします。



背番号
11

桑木 拓磨

(岡山県立玉島商業高等学校出身)
自分がマウンドに上がった時、先輩もしくは中継ぎであるが自分の持っている全力を発揮しよう頑張ります。応援よろしくお願いします。



背番号
16

土肥 耕陽

(広島県立総合技術高等学校出身)
全国大会では、緊張に打ち勝ち、堂々と投げ込みます。応援して下さい。感謝の気持ちを忘れず、全力でプレーします。



背番号
1

安田 翔

(山口県・宇部鴻城高等学校出身)
全日本大学野球選手権大会では、今まで支えてくれた方々に恩返しができるように頑張ります。夢や希望を支えられるようなプレーをします。



背番号
8

大野 裕一

(山口県・宇部鴻城高等学校出身)
全国大会では、自分の与えられた役割をしっかりと果たし、チームの勝利に貢献していきたいと思ひます。応援よろしくお願いします。



背番号
13

槌井 湧也

(広島県・尾道高等学校出身)
この度、全国大会出場を決めて1勝を目標にし、野球部員としての誇りと自覚を持ち学生らしく、はつらつとしたプレーをしたいと思ひます。



背番号
27

矢野 匡祐

(広島県立福山明玉台高等学校出身)
全国大会へ出場することはチームの目標でしたので、出場できて嬉しく思います。1つでも多く勝てるように戦っていきます。



背番号
14

山近 成巧

(山口県・宇部鴻城高等学校出身)
この度、全国大会に出場するという事は中国地区の代表として出場することです。誇りを持ち応援していただいた方々への感謝の気持ちを忘れず頑張ります。



背番号
7

白井 来良

(大分県立杵築高等学校出身)
全国大会では、ベストなプレーができるようにしっかりと準備をして、試合に出れることに感謝し、ひたすら前向きに全力を尽くします。



背番号
12

藤原 一輝

(岡山県立玉野光南高等学校出身)
全国大会では、レギュラーがプレーしやすいように一生懸命サポートし、また自分が出た時はチームの為にプレーします。



背番号
19

岡田 直樹

(広島県立総合技術高等学校出身)
全国大会は、4年生のほとんどが最後の大会なので先輩方のサポートをし、試合に出場した時は全力でプレーします。



背番号
3

長野 和稀

(山口県・宇部鴻城高等学校出身)
全国大会では、1年生でベンチ入りするの先輩方を盛り上げ、1勝を目指して頑張ります。

編集後記

硬式野球部の第63回全日本大学野球選手権大会への出場を記念して、学報の号外を発行しました。中国六大学野球春季リーグ戦で優勝した硬式野球部の皆さんに、お祝いを申し上げます。今回の活躍は、大学全体に感動と活力を与えてくれました。全国大会でもその実力が十分に発揮できるよう、学生及び教職員の皆さんで応援しましょう!

発行 福山大学
編集 福山大学広報委員会

〒729-0292 広島県福山市学園町1番地三蔵
TEL(084)936-2111 FAX(084)936-2213

<http://www.fukuyama-u.ac.jp>